

第13章 文 化

第1節 文化、スポーツ施設等の再開

1. 文化施設の再開

神戸市内の文化活動の拠点として各区に区民センター若しくは勤労市民センター等の施設を設置しているが、市街地の施設を中心にほとんどの施設が図表13-1-1のような被害を受けた。

被害の程度により、使用不可になった施設もあるが、使用可能な施設は避難所として被災者の救援にあたることとなった。そのため、貸室事業、クラブ・講座事業、音楽・演劇事業等のあらゆる文化・スポーツ活動が制約を受けるところとなった。

被害施設の復旧は、被害の程度、復旧方法、財源、時期等を考慮しながら可能なところから工事を行うこととした。避難所となった施設は避難者が退所するまでは本格的な復旧工事には入れないということも生じた。また、工事費も多額にのぼり財源措置も大きな問題であった。特に市費建設施設については、国費補助の適用がなく全額市費負担であったが、文化庁の英断により300人以上収容の大ホールを有する施設については文化施設として文化庁補助が適用されることとなり、神戸文化ホール、勤労会館をはじめとして大部分の区民センター及び勤労市民センター等がその対象となった。

施設再開については、復旧工事が完了したところ、また、使用可能な部屋より順次開設していくこととした。なお、避難者が滞在する段階での一部再開は、避難者の了解を得ながら動線を分離するなどプライバシーの保護に努めた。

避難所の対応は、24時間体制で施設職員がおこなってきたが、施設の一部再開からは本来業務との兼ね合いもあり災害対策本部との調整が求められるようになった。

また、各施設ではこの間、震災により被災した多くの市民の癒しと、励ましと、復興への勇気づけとなる各種の催し物やボランティアによるコンサートなども盛んにおこなわれた。

その後、避難者の減少に伴う避難所の閉鎖に

図表13-1-1 文化施設等の被害

| 施設名 | 被害状況 | 使用状況 | 施設再開 |
|------------------|-----------------------|---------|----------------------------|
| 神戸文化ホール | 照明器具一部落下 舞台機構操作盤損壊 | 避難所 | 平成7年9月1日 |
| 神戸文化ホール 小ホール | エレベーター損壊 | 一部補修 | 平成7年4月1日 |
| 東灘区民 センター | 大ホール天板落下 事務所大破 | 使用不可 | 平成8年4月1日 |
| 葦合文化 センター | ロビー床タイル剥離 | 避難所 | 平成7年8月1日 (平成7年5月17日一部) |
| 生田文化会館 | 大ホール蛍光灯破損 体育室天板落下 | 避難所 | 平成8年4月1日 (平成7年10月1日一部) |
| 北区民センター | 4階競技場壁面亀裂 | 一部補修 | 平成7年4月1日 |
| 須磨区民 センター | 玄関ガラス破損 入口付近陥没 | 避難所、待機所 | 平成10年4月1日 (平成8年7月2日一部) |
| 北須磨文化 センター | 競技場屋根破損 プール天井破損 | 一部補修 | 平成7年11月1日 (平成7年4月1日一部) |
| 西区民センター | 大ホール壁一部破損 照明一部落下 | 一部補修 | 平成7年4月1日 |
| 丸山コミュニティ センター | 高架水槽破損 水道管一部破損 | 一部補修 | 平成7年4月1日 |
| 王子市民 ギャラリー | 屋根瓦損壊 照明破損 | 一部補修 | 平成7年10月1日 |
| 神戸カメラミュー ジウム | 被害軽微 | 一部補修 | 平成7年7月1日 |
| 勤労会館 | 一部鉄筋露出 壁面亀裂多数 | 避難所 | 平成8年4月2日 |
| 勤労会館別館 (海の家) | 被害軽微 | 避難所 | 平成7年8月16日 (平成7年7月25日一部) |
| 六甲道勤労市民 センター | 鉄筋露出 入館禁止 | 使用不可 | 平成8年3月1日 |
| 灘区民ホール | 外柱一部破損 天井全落下 | 避難所 | 平成8年4月26日 |
| 兵庫勤労市民 センター | 壁面亀裂 | 避難所、待機所 | 平成7年8月2日 (平成7年8月2日一部) |
| 新長田勤労市民 センター | 壁面亀裂 | 避難所、待機所 | 平成7年9月3日 (平成7年9月3日一部) |
| 垂水勤労市民 センター | 被害軽微 | 一部補修 | 平成8年1月5日 (平成7年5月2日一部) |

より平常業務に順次移行したが、兵庫勤労市民センター、新長田勤労市民センター及び須磨区民センターは、待機所として存続した。すべての施設が平常業務に戻ったのは震災から3年以上経過した平成10年4月であった。

2. 社会教育施設の再開

神戸市内の社会教育施設は震災により、市街地を中心に多大な被害を受けた。このため、まず被害状況を把握し、復旧・再開を進めていった。

(1) 災害復旧補助事業

当初、職員の不足、2次災害の危険性などから各施設の被害状況の把握は困難をきわめた。そのような状況の中、2月21日、三田市において、県下市町を集め、文部省の「公立社会教育施設災害復旧補助事業」の説明会が開催され、本格的な復旧事業に取り組むことになった。

社会教育施設の復旧については、「激甚災害法」が適用され、復旧費の3分の2が国庫補助されることになった。そこで教育委員会は、6年度災害復旧事業として、良好な環境での資料の保存が必要な博物館などの3施設におけるライフラインの復旧と、16,000冊もの図書が水損した灘図書館の図書の復旧を計画した。

なお、事業計画書の作成においては、時間不足、人手不足、災害単価の適用による従来の積算方法との違い、初めての事業によるとまどいなどで混乱をきたした。

3月13日からの文部省の現地査定を終了したあと、7年度の災害復旧補助事業のため、6年度申請施設を含む21施設の事業計画書の作成に取り組んだ。

① 平成6年度災害復旧補助事業

早急に復旧に必要な博物館ほか2施設のライフラインなどを、国の6年度第2次補正予算による災害復旧事業として計画、文部省の現地調査を経て、3月下旬に申請書を提出した。

② 平成7年度災害復旧補助事業

この後、7年度災害復旧補助事業のため21施設について4月～5月にかけて現地調査、

6月に申請書を提出した。

復旧工事の遅れ、その後の被害個所の発見、返却不能図書や魚など水族の補助対象化、建設単価の格差など様々な課題を乗り越えて災害復旧事業を進めていった。

③ 私立博物館の復旧

災害復旧補助事業が適用されない私立登録博物館、私立博物館類似施設等のうち計8施設については、阪神・淡路大震災復興基金の補助対象（復旧費の3分の1又は2分の1）となった。

(2) 復旧工事

現地調査により、補助対象工事が決定した。復旧工事は順次進めていたが、民間業者の労務不足、資材不足などにより契約が遅れるなどのケースも出てきた。

また、災害単価により復旧費を算出しているため、実勢単価との差が生じたり、事業計画書の作成段階では分からなかった被害が後日発見されたりする施設が出るなど、当初の人手と時間の不足が最後まで影響を及ぼした。

(3) 復旧における課題

この補助制度は、基本的には学校施設を想定したものであり、社会教育施設の復旧とはなじまない部分もあった。たとえば、図書館では、震災時に貸し出していた図書は、市内家屋の被害が激しく大半の図書は返却されないと予想した。しかも、図書の復旧は現行制度のなかでは想定されていなかった。そこで県を通じた国との協議の結果、返却不能図書についても補助対象となった。

また、建て替え新築では、学校施設を基本とした建設単価が決められており、社会教育施設の建設とは単価に大きな格差生じる場合もあった。

(4) 社会教育施設の再開

被害が激しかった社会教育施設も多かったが、震災後の市民の憩いのためにも、再開できる施設はさまざまな工夫をしながら、順次下記のとおり再開を果たした。

図表13-1-2 社会教育施設の被害状況

| 施設名 | 主な被害状況 | 使用状況 | 再開状況 |
|-----------|---|-------------------------|---|
| 市立博物館 | 旧館と新館の地下1階の取合部の切断・段差・浸水、玄関回りの階段の沈下、旧館と新館のエキスパンション部の破損、浸水による熱源等の設備不能 | 避難所 待機所 | 平成8年1月17日 |
| 小磯記念美術館 | アトリエ大屋根瓦のゆるみ・剥離、玄関前等周辺部陥没、雨漏り、新館・本館接合部の破損、給排水設備破損 | | 平成7年10月3日 |
| 青少年科学館 | プラネタリウムと本館及び本館と新館の接合部の床面陥没・隆起、一部壁の亀裂、建物基礎下地盤沈下、給排水管破損 | | 平成7年6月18日 |
| 須磨海浜水族園 | <ul style="list-style-type: none"> ・渡廊下ジョイントのずれ、床の汚損、壁面の落下等 ・広場・外溝等の陥没・亀裂、雨水会所・玉砂利の破損等 ・取水設備、給排水設備、水槽内部の破損等 ・297種(64%)・約11,000点(48%)の水族死亡 | | 平成7年4月20日 |
| 王子動物園 | <ul style="list-style-type: none"> ・太陽の動物舎の暖房設備・北園井戸の破損 ・蒸気機関車(展示)脱線 ・旧ハンター住宅の煙突落下破損 ・動物の死傷はなし ・自衛隊の駐屯基地、遺体安置所等となる | | 平成7年4月1日より通常開園 |
| 婦人会館 | 壁・廊下・トイレに亀裂・剥離・落下、階段に亀裂、ガラスケース倒壊・破損 | | 平成7年10月20日 |
| 自然の家 | 摩耶施設の天井内壁落下、六甲施設の設備破損、山上水槽破損 | | 平成7年4月1日 |
| 埋蔵文化財センター | 1階ピロティ段差、壁面亀裂、展示品破損 | | 平成7年4月28日 |
| 中央図書館 | 旧館 | 半壊(柱・壁に断裂、外壁に多数の亀裂・剥離) | 平成9年6月3日 2号館として新築・再開 |
| | 新館 | 電動集密書架座屈損傷、階段部分壁面に多数の亀裂 | 平成7年4月28日 |
| 東灘図書館 | 一部壁に軽微な亀裂 | | 平成7年4月28日 |
| 灘図書館 | 一部書架損傷、壁に軽微な亀裂、ガラス破損、図書資料水損 | | 平成7年11月1日 |
| 三宮図書館 | 一部壁に亀裂・剥離、ガラス破損、一部書架損傷、外壁崩落 | | 平成7年8月1日 |
| 北図書館 | 一部書架損傷、一部壁に亀裂・剥離、玄関ガラス破損 | | 平成7年4月28日 |
| 長田図書館 | 中心部柱2本崩壊鉄筋露出、外壁に断裂剥離、壁に多数亀裂、一部庇崩落、書架多数破損 | | 解体 ^(注) 平成10年3月31日 解体撤去 |
| 須磨図書館 | 事務室ガラス破損、玄関ロビー部分等陥没、一部書架損傷 | 避難所 | 平成7年11月28日 |
| 垂水図書館 | 一部壁・外壁に亀裂 | | 平成7年4月28日 |
| 西図書館 | 一部壁・外壁に亀裂 | | 平成7年4月28日 |
| 新長田図書館 | 外壁に亀裂、階段部分の壁・図書館入口部分に小亀裂 | | 平成7年12月12日 |
| 住之江公民館 | 柱・壁の亀裂、体育室床一部沈下・たわみ、体育室天井照明カバー落下 | 避難所 | 平成7年6月9日 |
| 葦合公民館 | 側溝破損、縁石・舗装破損、石垣一部崩壊、各室内・外壁・床亀裂及びタイル割れ、ガラス扉破損 | 避難所 | 平成7年10月2日 |
| 清風公民館 | よう壁一部崩落、体育室床フローリング破損、冷暖房室外機用土台破損 | 避難所 | 平成7年8月5日 |
| 長田公民館 | 外部縁石・土間コンクリート・側溝等破損、各室内・外壁亀裂、体育室空調設備・照明器具破損 | 避難所 | 平成7年9月19日 |
| 南須磨公民館 | 内壁・屋根に亀裂、体育室床フローリング破損、給水タンク倒壊、扉ガラス破損、物置損壊 | 避難所 | 平成7年11月13日 |
| 東垂水公民館 | 体育室天井セメント板浮き、床亀裂、玄関部分隆起、タイル破損 | | 平成7年6月29日 |
| 玉津南公民館 | 体育室天井板の落下、窓ガラス破損 | 避難所 | 平成7年9月5日 |

(注) 長田図書館の機能は平成7年12月12日開館の新長田図書館に移転

① 博物館・美術館など

震度7の激震地に位置した博物館などの施設は大きな被害を受けた。幸い、市内北・西部の施設は軽微な被害で早期に再開することができた。

② 図書館

震災後の早い時期から、再開に関する問い合わせが多かった。そこで比較的被害が軽微だったところから復旧工事と並行して開館する方針をとった。そして、館内の整理が済みしだい順次再開した。

③ 公民館

市街地の公民館は、ほぼすべて避難所となった。

復旧工事は避難住民の迷惑にならないように配慮し、使用できる教室などを順次利用し、市民に開放していった。

3. スポーツ施設の再開

スポーツ施設も社会教育施設同様に、多大な被害を受け、文部省の現地調査を受け、災害復旧事業の概要が決定した。

(1) 災害復旧補助事業

スポーツ施設の復旧についても、復旧費の3分の2が国庫補助されることになった。この制度に基づき、市の体育施設も国庫補助を受けることを前提に、原形復旧を基本方針として復旧事業を進めていった。

3月、神戸ポートアイランドホール、中央体育館、垂水体育館の3施設について、文部省の現地調査を受けた。

復旧費の算出は、震災直後の中で、困難をきわめた。なお、中央体育館は改修工事中のため補助対象の適用除外となった。また、被害調査の費用は、補助対象外になるなどのルールがあり、財源を心配しながら作業を進めた。

また、6月には、東灘体育館、須磨体育館、西体育館、ポートアイランドスポーツセンターが文部省の現地調査を受けた。

(2) 復旧工事

スポーツ施設は施設規模が大きく、復旧にも

時間を要した。中央体育館、西体育館、神戸ポートアイランドホールの天井落下復旧工事は、内部足場を組み復旧した。また、神戸ポートアイランドホールは、調査時点で判明していなかった浸水の被害が工事に入って見つかった。

ポートアイランドスポーツセンターは、アリーナがそのまま15cm程度沈下したため、復旧にかかる費用、期間、復旧後の使用方法などを検討した結果、沈下した状態での復旧方法に決定した。

なお、王子スポーツセンターのバレーボール兼テニスコート、プール、陸上競技場の復旧は、公園施設として土木局から建設省に補助申請した。

(3) スポーツ施設の再開

スポーツ施設は、震災直後から避難所、救援物資の集配所、学用品受け入れセンターなどに使用された。しかし、再開についての市民の要望も強く、比較的被害の少なかった施設や、復旧工事との調整で部分再開が可能な施設などから順次再開していった。

また、被災学校園の児童生徒の運動場の代替場所として、体育の授業や部活動の場としても人きな役割を果たした。

図表13-1-3 スポーツ施設の被害

| 施設名 | 主な被害状況 | 使用状況 | 再開状況 |
|------------------|---|------------|---|
| 御崎公園 | スタンド一部破損・撤去工事のみ | 仮設住宅 | 2002年ワールドカップのため、改修工事中 (～平成14年3月) |
| 本多聞南公園 | テニスコート三面段差発生 | 仮設住宅 | 平成12年4月(予定) |
| 神戸総合運動公園 | 陸上競技場スタンド破損 野球場照明破損、体育館床破損 | | グリーンスタジアム神戸 平成7年3月1日 ユニバー記念競技場 平成7年4月22日 (大会利用のみ) グリーンアリーナ神戸 平成7年4月1日 テニスコート 平成7年4月1日 |
| 王子スポーツセンター | 陸上競技場石積み・スタンド崩壊 テニスコート破損、プールサイド亀裂 | 避難所 待機所 | 陸上競技場 平成9年6月1日 バレー兼テニスコート 平成7年10月1日 プール 平成7年6月15日 体育館 平成8年4月8日 身障体育館 平成8年6月1日 トレーニング室 平成7年11月5日 剣道場 平成7年11月5日 柔道場 平成8年3月1日 |
| ポートアイランドスポーツセンター | 施設外周部陥没、競技場部分の沈下、受水槽の破損 | | 平成7年12月16日(スケート場) 平成7年5月27日(25mプール) 平成8年6月13日(50mプール、飛込プール) |
| ポートアイランドホール | アリーナスピーカー落下、床面破損、地下浸水、施設外周部陥没 | | 平成7年9月30日 |
| 中央体育館 | 内外壁亀裂、天井吸音パネル落下 | | 平成7年6月1日 |
| 東灘体育館 | アリーナ内照明落下、増築部分に亀裂 | 避難所 待機所 | 平成8年2月1日 |
| 須磨体育館 | 内外壁クラック、外構破損 | 避難所 待機所 | 平成7年10月26日 |
| 垂水体育館 | 競技場内壁クラック | 避難所 待機所 | 平成7年4月28日 |
| 西体育館 | 天井板金具落下、外構破損 | 避難所 待機所 | 平成7年4月28日 |
| 市民運動場 | 野球場ブロック塀倒壊、プールサイド亀裂 | 仮設住宅 | 未定 |
| かるもプール | 屋内プール破損漏水、プールサイドに亀裂・泥水噴出、屋外プールサイド段差1m以上 | | 平成7年7月15日 |
| 新神戸大プール | プール亀裂 | | 未定 |

第2節 文化の復興

1. 神戸市民文化振興財団の文化事業

震災は、神戸文化のソフト、ハード両面に対して大きな被害を及ぼし、多くの文化事業を進める場が失われただけでなく、市民が文化を享受し創造する場と機会が損なわれた。

神戸市民文化振興財団（この節で以下「振興財団」という。）が管理運営する神戸文化ホール、区民センター等も程度の差はあるがすべて被害を受け、神戸文化ホールなど4施設が避難所となり、避難所運営を含む災害関連業務への従事が緊急課題となった。このため、本来業務はすべて停止を余儀なくされた。

しかし、生活再建をめざす多数の被災市民にとって、心のうるおいや復興に向けての精神的エネルギーを生み出すうえで文化活動の場や文化を享受する機会を速やかに回復することも大切なものとされた。

このようなことを踏まえ、また災害関連業務との関係や施設の復旧・復興の進捗状況、震災後の財政状況等も考慮しながら、事業の再開を図ることとした。

振興財団の運営施設の再開は、平成7年度から利用可能となったところから順次市民の利用に供した（第1節参照）。

一方、文化事業は、7年度前半までは震災が市民生活面に大きな影響を及ぼしていたこと、また振興財団自体も震災関連業務に追われている状況からほとんど実施に至らなかったが、その中で市民の文化情報誌「KOBE C情報」はコンパクトな新しい形で5月より復刊し、全国各界からのメッセージ「翔け！神戸」や「ありがとうチャリティ公演情報」などを盛り込み、被災市民への情報提供に努めた。

市民生活の落ち着きが少しずつ回復してきた同年度後半からは、市民一人ひとりが元気を取り戻し生活再建や復興への意欲へつなげてもらうため本来の文化事業を可能な限り進めていくよう努めた。文化事業部では、神戸市吹奏楽祭、

母親コーラスの集い、STUDENT JAZZ FESTIVAL、高校演劇祭、こうべ全国洋舞コンクールの開催やこうべ市民文芸の実施などの「市民文化振興事業」、またKOBE ジャズストリート、室内楽名曲シリーズ、KOBE フレッシュコンサート、神劇まわり舞台の開催など「芸術文化鑑賞事業」を展開し、また市民のオーケストラ「神戸フィルハーモニック」の演奏会も開催した。また再開のできた区民センターでは同年度後期より各種文化講座などを行い、市民に文化活動及び文化鑑賞の機会と場を提供した。



写真13-2-1 自衛隊音楽隊の慰問演奏会で。演奏の合間にこまの曲芸も行われた。

なお、厳しい財政状況による事業の見直しや実施会場の確保などからKOBE シェクスピア劇場・KOBE 秋のプロムナードを中止し、こうべ市民美術展・中学生の能・狂言鑑賞事業・神戸具象彫刻大賞展を1年、神戸須磨離宮公園現代彫刻展を2年それぞれ繰延べ実施するに至ったほか、日本アマチュアシャンソンコンクール及び60歳からのデビュー「あなたにシャンソンを」は7年度に限り神戸市婦人文化協会で開催を担ってもらった。

また、多くの被災した市民を対象に「励まし、勇気づけ」の事業として、日本フィルハーモニック交響楽団の協力を得て親子向けに音楽物語「ゼロ弾きのゴーシュ」の開催や阪神・淡路大震災1周年関連行事「市民のつどい」の実行委員会の一員として以後3周年までその開催に加わった。

一方震災後、被災市民の心を癒し、励ますための慰問活動やチャリティ公演が市内でかなり

の数で行われたが、振興財団にも内外の文化・芸術団体などから受け入れ先の調整、会場の紹介、入場者の募集などの申し入れが相次ぎ、平成7年2月のテレマン室内管弦楽団の慰問演奏会を皮切りに平成10年度まで延70回（入場者延32,519人）の被災者慰問活動を積極的に後援した（図表13-2-1）。

慰問活動の実施時期は震災後1年間が大半を占めていたが、特にこの時期ライフラインの復旧とともに心のケアが必要とされたことなどから開催の申し入れが相次いだものと考えられる。

慰問団体は被災体験を共有する地元団体をはじめ国内外の著名なアーティストにも及び、会場は避難所や人の集まりやすい場所が選ばれ、演奏曲なども市民に親しみのあるポピュラーなものが多かった。特に入場希望者を募った中で、親子を対象とした小沢征爾・新日本フィルハーモニーや泉谷基金による「日本をすくえ'95」などでは、定員をはるかに超える応募者があった。また日本・中国・韓国の民族楽器を奏でるオーケストラアジアでは神戸在住の多くのアジアの人々が招待された。

また、地元活動団体のうち長期にわたり実施された特徴的な活動例として「アート・エイド・神戸」と「リ・アンサンブル」があった。「アート・エイド・神戸」は、神戸文化を自らの手で守り、芸術家自身も新しい神戸文化の再生・創造のために結集するという理念のもと美術・音楽・演劇・文学などを通じて人々に勇気と慰めを与え、作品の販売や発表活動による収益を復興に役立てようとする運動で、被災芸術家への

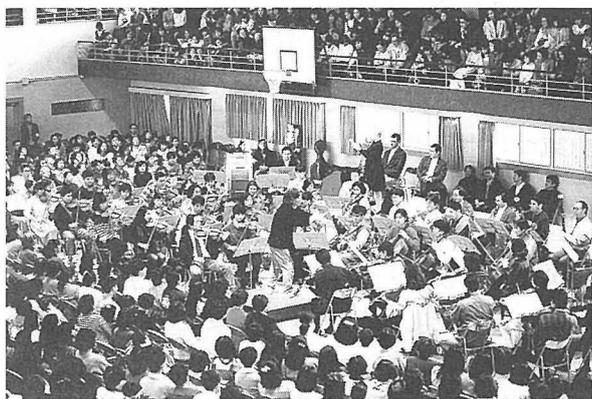


写真13-2-2 暖房設備もなかったが熱気に包まれた
小沢征爾指揮／新日本フィル激励演奏会

緊急支援、美術・音楽など創作発表活動に対する助成、震災記録発表への支援など幅広い活動を展開、現在もその活動が続けられている。

一方「リ・アンサンブル」は、「被災地に音楽を、被災した音楽家に仕事を」を目的にフリーの演奏家で結成、出資金を募ってこれを出演料に充てて向う3年間慰問演奏を続けるもので平成10年まで約80回の活動が行われた。

このほか、文化復興の拠点となる民間施設などが次々と再開されるとともに様々なチャリティ公演をはじめ文化事業が開催されるなどソフト・ハード面で神戸の文化復興をめざす取り組みが行われ、振興財団でもできるだけその情報の収集を行い、KOBE C 情報などを通じ積極的に紹介に努めた。



写真13-2-3 日本をすくえ'95 IN メリケンパーク

震災後1年が経過した平成8年度は、振興財団文化事業も全般的にほぼ平常化できたほか、若手芸術家・演劇人の育成・振興拠点として新たにオープンした「神戸アートビレッジセンター」で、これまで機会の少なかった小演劇を主体とした演劇・シルクスクリーンによる美術事業やアート・ミニシアター系映画の上映など事業の拡充を図った。

また、振興財団への寄付金をもとに「まちかどふれあいステージ」などの実施や、全市的に展開された元気アップ神戸市民運動の支援事業として9年度「明治・大正・昭和ーなつかしい歌のかずかず」など様々な事業を通じて市民の元気アップの一助となる事業にも取り組んだ。

その後震災から3年を迎える平成10年度は、2年繰延べとなった神戸須磨離宮公園現代彫刻

展を開催したほか、全区民センターで震災以来初めて春、秋の定例講座事業が実施できた年となった。

文化事業などへの市民の参加状況は、文化事業部事業ではほぼ震災前に回復するとともに日本アマチュアシャンソンコンクール・KOBEジャズストリートなどの全国発信事業では震災前以上の参加者が得られ、神戸のまちの復興を知ってもらふ機会の提供にもつながった。また、

区民センターなどでは平成10年度には、講座数、受講者数で平成6年度のそれぞれ約89%、79%の回復状況であるものの、利用者数では震災前にほぼ達している（図表13-2-2）。

図表13-2-1 被災者慰問事業等の実施実績（神戸市民文化振興財団後援）No.1

| No. | 年月日 | 出演者 | 主催 | 会場 | 参加者数 |
|-----|---------|-----------------------|----------------------|-----------------|-------|
| 1 | H7.2.15 | テレマン室内管弦楽団 | 日本テレマン協会 | 神戸文化ホールロビー | 150 |
| 2 | H7.2.18 | テレマン室内管弦楽団 | 日本テレマン協会 | 葺合文化センター | 200 |
| 3 | H7.2.23 | 自衛隊音楽隊 | 自衛隊 | 上筒井小学校 | 450 |
| 4 | H7.2.23 | セントルイス交響楽団 | セントルイス交響楽団 | 新神戸オリエンタル劇場 | 700 |
| 5 | H7.3.6 | 自衛隊音楽隊 | 自衛隊 | 県立文化体育館 | 100 |
| 6 | H7.3.6 | さとう宗幸 | 神戸新聞社 | 葺合文化センター | 300 |
| 7 | H7.3.7 | 自衛隊音楽隊 | 自衛隊 | 雲中小学校 | 100 |
| 8 | H7.3.7 | 自衛隊音楽隊 | 自衛隊 | しあわせの村 | 200 |
| 9 | H7.3.8 | 自衛隊音楽隊 | 自衛隊 | 王子スポーツセンター | 50 |
| 10 | H7.3.9 | 自衛隊音楽隊 | 自衛隊 | 北野小学校 | 100 |
| 11 | H7.3.10 | 自衛隊音楽隊 | 自衛隊 | 稗田小学校 | 100 |
| 12 | H7.3.11 | 自衛隊音楽隊 | 自衛隊 | 青陽東養護学校 | 50 |
| 13 | H7.3.11 | 伊藤勝（ピアノ） | 阪急百貨店 | 阪急百貨店神戸店1階 | 200 |
| 14 | H7.3.12 | 自衛隊音楽隊 | 自衛隊 | 上野中学校 | 200 |
| 15 | H7.3.12 | 岡田征士郎＋エコ・エレガント（歌） | 阪急百貨店 | 阪急百貨店神戸店1階 | 200 |
| 16 | H7.3.13 | 自衛隊音楽隊 | 自衛隊 | 本山第3小学校 | 200 |
| 17 | H7.3.14 | 自衛隊音楽隊 | 自衛隊 | 二宮小学校 | 100 |
| 18 | H7.3.17 | テレマン室内管弦楽団 | 日本テレマン協会 | 神戸市防災コミュニティセンター | 100 |
| 19 | H7.3.17 | テレマン室内管弦楽団 | 日本テレマン協会 | 稗田小学校 | 200 |
| 20 | H7.3.19 | 宮本慶子、山中佑起子、栗原未知（マリンバ） | 阪急百貨店 | 阪急百貨店神戸店1階 | 200 |
| 21 | H7.3.22 | 小沢征爾・新日本フィルハーモニー | 小沢征爾・新日本フィルハーモニー | 神戸山手女子短大体育館 | 3,000 |
| 22 | H7.3.22 | 練木繁夫（ピアノ） | 神原音楽事務所 | 吾妻小学校 | 150 |
| 23 | H7.3.22 | 練木繁夫（ピアノ） | 神原音楽事務所 | 葺合文化センター | 100 |
| 24 | H7.3.25 | 水澤節子（歌） | 阪急百貨店 | 阪急百貨店神戸店1階 | 200 |
| 25 | H7.3.26 | 三室堯（歌） | 阪急百貨店 | 阪急百貨店神戸店1階 | 200 |
| 26 | H7.4.2 | 神戸フィルハーモニック | アート・エイド・神戸実行委員会 | 神戸朝日ホール | 500 |
| 27 | H7.4.15 | がんばろう神戸コンサートPART1 | アート・エイド・神戸実行委員会 | 神戸朝日ホール | 500 |
| 28 | H7.4.16 | がんばろう神戸コンサートPART2 | アート・エイド・神戸実行委員会 | 神戸朝日ホール | 500 |
| 29 | H7.4.17 | テレマン室内管弦楽団 | 日本テレマン協会 | 神戸ポートピアホテルロビー | 350 |
| 30 | H7.4.17 | テレマン室内管弦楽団 | 日本テレマン協会 | 神戸ベイシェラトンホテル | 200 |
| 31 | H7.4.23 | 自衛隊音楽隊 | 自衛隊 | しあわせの村 | 200 |
| 32 | H7.4.23 | モスクワ・ロクチェフ少年少女合唱団 | 関西復興へ行動する市民の会「そして神戸」 | スペースシアター他 | 400 |

図表13-2-1 被災者慰問事業等の実施実績（神戸市民文化振興財団後援）No. 2

| No. | 年月日 | 出演者 | 主催 | 会場 | 参加者数 |
|--------------------|-----------|--------------------------|-----------------------|----------------|--------|
| 33 | H7.4.25 | デュオ・ハヤシ | アート・エイド・神戸実行委員会 | 神戸朝日ホール | 500 |
| 34 | H7.4.28 | プレストン・シタデルバンド&タンバリンコンサート | 旧居留地協議会 | さくら銀行前 | 300 |
| 35 | H7.5.2 | 澤和樹弦楽四重奏団 | アート・エイド・神戸実行委員会 | 神戸朝日ホール | 500 |
| 36 | H7.5.13 | さわやかコンサート | 梶川純司（広島） | 葦合文化センター | 100 |
| 37 | H7.5.14 | 千住真理子ヴァイオリンリサイタル | アート・エイド・神戸実行委員会 | 神戸朝日ホール | 500 |
| 38 | H7.5.17 | テレマン室内管弦楽団 | 日本テレマン協会 | 神戸朝日ホール | 500 |
| 39 | H7.5.24 | ロンドン交響楽団 | ロンドン交響楽団 | 西山記念会館 | 700 |
| 40 | H7.5.29 | フォルクローレグループ「ルス・デル・アンデ」 | 日本ラテンアメリカ文化交流協会アミーゴ本部 | 神戸朝日ホール | 500 |
| 41 | H7.6.20 | テレマン室内管弦楽団 | 日本テレマン協会 | 神戸文化ホールロビー | 200 |
| 42 | H7.7.9 | リ・アンサンブル | 阪神大震災復興演奏家集団 | 県立兵庫高校 | 50 |
| 43 | H7.7.17 | リ・アンサンブル | 阪神大震災復興演奏家集団 | 市立湊川中学校 | 60 |
| 44 | H7.7.18 | テレマン室内管弦楽団 | 日本テレマン協会 | 県立兵庫高校 | 300 |
| 45 | H7.7.18 | 丸山久・美しき日本の歌 | 丸山音楽事務所 | 市立福住小学校 | 50 |
| 46 | H7.7.19 | 丸山久・美しき日本の歌 | 丸山音楽事務所 | 市立青陽東養護学校 | 50 |
| 47 | H7.7.20 | 丸山久・美しき日本の歌 | 丸山音楽事務所 | 市立長田公民館 | 50 |
| 48 | H7.7.22 | リ・アンサンブル | 阪神大震災復興演奏家集団 | 市立駒ヶ林中学校 | 50 |
| 49 | H7.8.12 | 日本をすくえ'95 | 泉谷基金 | メリケンパーク | 11,000 |
| 50 | H7.8.14 | 中田喜直の宇宙～夏の思い出に | アサクラビルコンサート企画 | 西山記念会館 | 700 |
| 51 | H7.8.23 | テレマン室内管弦楽団 | 日本テレマン協会 | 兵庫県公館 | 500 |
| 52 | H7.9.30 | オーケストラ・アジア | オーケストラ・アジア日本委員会 | 神戸文化ホール | 1,000 |
| 53 | H7.10.7 | ストーリーを奏でるピアノコンサート | サークル T.I | 産業振興センター | 373 |
| 54 | H7.10.24 | 日本フィルと関西の仲間たち「港の風に寄せて」 | アート・エイド・神戸実行委員会 | 産業振興センター | 311 |
| 55 | H7.11.1 | 童謡・弘田龍太郎の世界 | 豊田偕子・須藤恵実 | 北須磨文化センター | 250 |
| 56 | H7.11.3 | 童謡・弘田龍太郎の世界 | 豊田偕子・須藤恵実 | しあわせの村 | 250 |
| 57 | H7.12.15 | 盛中国ヴァイオリンコンサート | アート・エイド・神戸実行委員会 | 産業振興センター | 325 |
| 58 | H7.12.16 | 盛中国ヴァイオリンコンサート | アート・エイド・神戸実行委員会 | 六甲I南ふれあいセンター | 90 |
| 59 | H8.3.21 | 左門流桐舞会 | 左門流桐舞会 | 大池サンホーム | 100 |
| 60 | H8.3.29 | 春よこい・激励コンサート | 日本フィル | 鹿の子台ふれあいセンター | 150 |
| 61 | H8.4.7 | 盛中国ヴァイオリンコンサート | 盛中国・瀬田裕子 | 六甲I南ふれあいセンター | 60 |
| 62 | H8.5.21 | 堤・神谷デュオコンサート | アート・エイド・神戸実行委員会 | 東灘区民センター | 650 |
| 63 | H8.6.14 | あわて幕やぶけ芝居 | 東京芸術座 | 神戸文化ホール | 900 |
| 64 | H8.6.28 | 初夏の風・激励コンサート | 日本フィル | 西神7仮設東ふれあいセンター | 100 |
| 65 | H8.11.22 | 弘田龍太郎作品と秋の童謡をうたう | 豊田偕子・須藤恵実 | 特別養護老人ホーム・協同の苑 | 100 |
| 66 | H8.11.23 | 弘田龍太郎作品と秋の童謡をうたう | 豊田偕子・須藤恵実 | しあわせの村 | 250 |
| 67 | H9.11.22 | 「叱られて・浜千鳥」日本の童謡の数々 | 豊田偕子・須藤恵実 | さざんか療護園 | 100 |
| 68 | H9.11.23 | 「叱られて・浜千鳥」日本の童謡の数々 | 豊田偕子・須藤恵実 | しあわせの村 | 250 |
| 69 | H10.11.22 | 昔から今、そして未来へ歌い継ぐ名曲 | 豊田偕子・須藤恵実 | 子供の家 | 100 |
| 70 | H10.11.23 | 昔から今、そして未来へ歌い継ぐ名曲 | 豊田偕子・須藤恵実 | しあわせの村 | 350 |
| 〔通算70回・参加者32,519人〕 | | | | | |

〔参考：年度別一覧〕

| | 平成6年度 | 平成7年度 | 平成8年度 | 平成9年度 | 平成10年度 | 合計 |
|------|--------|---------|--------|-------|--------|---------|
| 開催回数 | 25回 | 35回 | 6回 | 2回 | 2回 | 70回 |
| 入場者数 | 7,550人 | 22,109人 | 2,060人 | 350人 | 450人 | 32,519人 |

図表13-2-2 区民センターの講座への市民の参加状況等

講座数

| センター\年度 | 平成5年度 | 平成6年度 | 平成7年度 | 平成8年度 | 平成9年度 | 平成10年度 |
|---------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|
| 東 灘 | 129 | 145 | | 59 | 49 | 113 |
| 葺 合 | 124 | 140 | 65 | 148 | 153 | 160 |
| 生 田 | 189 | 192 | 25 | 166 | 155 | 151 |
| 北 | 121 | 126 | 61 | 112 | 118 | 119 |
| 須 磨 | 135 | 148 | | 53 | 86 | 107 |
| 北 須 磨 | 175 | 167 | 66 | 149 | 149 | 156 |
| 西 | 130 | 136 | 64 | 125 | 129 | 136 |
| 合 計 | 1003 | 1054 | 281 | 812 | 839 | 942 |

受講者数

| センター\年度 | 平成5年度 | 平成6年度 | 平成7年度 | 平成8年度 | 平成9年度 | 平成10年度 |
|---------|--------|--------|-------|--------|--------|--------|
| 東 灘 | 3,080 | 3,384 | | 1,231 | 969 | 2,057 |
| 葺 合 | 3,274 | 3,496 | 1,820 | 3,556 | 3,416 | 3,424 |
| 生 田 | 4,983 | 4,733 | 535 | 3,763 | 3,609 | 3,546 |
| 北 | 3,093 | 3,218 | 1,579 | 2,951 | 2,963 | 3,023 |
| 須 磨 | 3,494 | 3,758 | | 1,047 | 1,840 | 2,076 |
| 北 須 磨 | 4,790 | 4,496 | 1,630 | 3,965 | 3,796 | 3,764 |
| 西 | 3,526 | 3,839 | 1,756 | 3,256 | 3,244 | 3,359 |
| 合 計 | 26,240 | 26,924 | 7,320 | 19,769 | 19,837 | 21,249 |

区民センター等利用者数

| 施設名 \ 年度 | 平成5年度 | 平成6年度 | 平成7年度 | 平成8年度 | 平成9年度 | 平成10年度 | 備 考 |
|---------------|-----------|-----------|---------|-----------|-----------|-----------|--------------|
| 区民センター | 東灘(本館) | 207,596 | 179,679 | 5,353 | 114,332 | 98,801 | 235,797 |
| | 〃 (小ホール) | 14,715 | 13,386 | | 17,195 | 20,238 | 14,499 |
| | 葺 合 | 120,192 | 94,805 | 73,406 | 111,780 | 113,406 | 108,203 |
| | 生 田 | 152,956 | 124,287 | 17,449 | 120,239 | 118,178 | 111,949 |
| | 北 | 147,748 | 167,367 | 265,661 | 258,808 | 229,879 | 234,240 |
| | 須 磨 | 139,839 | 101,953 | | 39,846 | 75,950 | 86,481 |
| | 北須磨 | 255,543 | 196,041 | 256,337 | 237,049 | 221,796 | 195,686 |
| | 西 | 140,893 | 117,510 | 160,911 | 187,502 | 189,755 | 189,261 |
| 丸山コミュニティセンター | 37,496 | 30,434 | 34,105 | 31,050 | 30,530 | 29,519 | |
| 小 計 | 1,216,978 | 1,025,462 | 813,222 | 1,117,801 | 1,098,533 | 1,205,635 | |
| 神戸アートビレッジセンター | | | | 69,806 | 80,822 | 85,934 | H 8.4.17オープン |
| 合 計 | 1,216,978 | 1,025,462 | 813,222 | 1,187,607 | 1,179,355 | 1,291,569 | |

2. 神戸文化ホール

(1) 避難者激励公演

神戸文化ホールは、震災当日の平成7年1月17日から被災者の避難所として、楽屋、中ホールロビー等を6月9日まで提供した。

この間、避難生活の疲れを癒していただこうと、数々の催しがボランティア団体の協力により、エントランスを舞台に開催された。避難者をはじめとして、外部からの多くの市民にも喜んでいただくことができた。

(2) ボランティア公演等（無料ご招待）

平成7年7月からは、神戸文化ホールと関わりのあった文化人、音楽事務所、劇団、また文化庁、兵庫県など多くのご協力を得て、市民にホールでの公演を楽しんでいただいた。

(3) がんばろう！神戸公演

神戸文化ホールの自主公演も平成7年10月から再開することができた。

震災による様々な被害を受けながら、生活の復興に向け日々頑張っておられる市民の方々に少しでも励ましになるように、7年度の自主公演を「がんばろう！神戸公演」と題して、一部無料を含む格安の料金で鑑賞いただいた。

図表13-2-3 ボランティア公演等

| 開催月日 | 催し物名 | 共催団体 | 公演数 | 入場者数 | 会場 |
|---------|---|--|-----|--------|------|
| H7.7.4 | 震災復興ボランティア公演 ピリー・ヴォーン楽団 | 伊藤音楽事務所 神戸文化ホール | 2 | 862 | 小ホール |
| 8.19 | 震災復興ボランティア公演 柳家小三治落語会 | 柳家小三治 神戸文化ホール | 1 | 450 | 小ホール |
| 9.1 | 震災復興ボランティア公演 ジャズ・コンサート | 神戸ジャズ・ストリート実行委員会 神戸文化ホール | 1 | 1,500 | 大ホール |
| 9.5 | 震災復興ボランティア公演 震災復興能 | 働能楽協会神戸支部 神戸文化ホール | 1 | 910 | 中ホール |
| 9.8 | 文化庁移動芸術祭激励公演 音楽座ミュージカル「とってもゴースト」 | 文化庁、兵庫県、兵庫県教育委員会 神戸市、神戸文化ホール | 1 | 1,560 | 大ホール |
| 10.13 | 震災復興ボランティア公演 東京芸術座「十二人の怒れる男たち」 | 東京芸術座 神戸文化ホール | 1 | 1,845 | 大ホール |
| 10.17 | 震災復興ボランティア公演 島田正吾ひとり芝居 | 島田正吾事務所 神戸文化ホール | 1 | 865 | 中ホール |
| H8.1.15 | コンサート“復興の街へ” 岩崎 淑とソリストたち | コンサート“復興の街へ”実行委員会 文化庁、兵庫県、兵庫県教育委員会 神戸市、神戸文化ホール | 1 | 812 | 中ホール |
| 1.18 | 阪神・淡路大震災1周年 －復興そして未来へ－ 元気です！神戸フォークコンサート | 阪神・淡路大震災1周年記念コンサート 実行委員会 (株)ラジオ関西、神戸文化ホール | 1 | 2,094 | 大ホール |
| 3.2 | －震災にちなんだ音楽作品を集めて－ 復興の詩コンサート | 神戸市演奏協会 神戸文化ホール | 1 | 735 | 中ホール |
| 3.13 | コンサート“復興の街へ” 大阪フィルハーモニー交響楽団演奏会 | コンサート“復興の街へ”実行委員会 兵庫県 神戸市、神戸文化ホール | 1 | 2,032 | 大ホール |
| 計 | 11演目 | | 12 | 13,665 | |

図表13-2-4 避難所激励公演

| 開催月日 | ボランティア出演団体 | 内 容 |
|---------|--------------|-----------|
| H7.2.15 | テレマン室内管弦楽団 | コ ン サ ー ト |
| 2.21 | 立山センター・オーバー他 | 漫才、落語、漫談等 |
| 3.13 | 中嶋常乃(ソプラノ歌手) | コ ン サ ー ト |
| 3.18 | 神戸市室内合奏団 | コ ン サ ー ト |
| 4.27 | 神戸市室内合奏団 | コ ン サ ー ト |
| 5.6 | 神戸市混声合唱団 | コ ン サ ー ト |
| 6.20 | テレマン室内管弦楽団 | コ ン サ ー ト |

図表13-2-5 がんばろう！神戸公演

| 開催月日 | 催し物名 | 公演数 | 入場者数 | 会場 | 入場料金(円) | 備考 |
|---------|-----------------------|-----|--------|------|--------------------------------|---|
| H7.10.7 | オペラ ガラ・コンサート | 1 | 854 | 中ホール | 無 料 | |
| 10.12 | モーリス・アンドレ トランペットコンサート | 1 | 1,431 | 大ホール | 3,000 | 無料招待200人 |
| 10.31 | 山本裕之テノールリサイタル | 1 | 604 | 中ホール | 3,000 学生 2,000 | 共催：神戸コンサート 協会 無料招待200人 |
| 11.12 | ウィーン交響楽団 | 1 | 1,921 | 大ホール | 3,500 | 無料招待200人 |
| 11.21 | 市川猿之助歌舞伎公演 | 2 | 3,098 | 大ホール | 3,500 | 無料招待200人 |
| 11.24 | 沢田真智子ピアノ協奏曲の夕 | 1 | 752 | 中ホール | 3,000 | 共催：神戸コンサート 協会 無料招待200人 |
| 12.21 | 宮本慶子マリimba・コンサート | 1 | 701 | 中ホール | 3,000 中学生以下 2,000 | 共催：神戸コンサート 協会 神戸マリimba ソサエティ 無料招待200人 |
| 12.23 | 第九シンフォニー演奏会 | 1 | 1,598 | 大ホール | 3,000 | |
| H8.1.15 | 神戸新春能 | 1 | 1,613 | 大ホール | 当日 3,500 (前売) (3,000) | |
| 3.10 | 人形浄瑠璃 文楽 | 2 | 1,366 | 中ホール | 1階席 3,000 2階席 2,000 | |
| 3.20 | 伊藤勝ピアノリサイタル | 1 | 618 | 中ホール | 3,000 | 共催：神戸コンサート 協会 |
| | 11演目 | 13 | 14,556 | | | |

第3節 文化財・歴史的建造物

(1) 文化財の被害状況

市内の国指定・県指定・市指定文化財のうち有形の文化財249件のなかで94件が被災した。

このうち建造物関係は80棟と全体の85%を占めている。

とりわけ国指定重要文化財「旧神戸居留地十五番館」は全壊、同「旧トーマス住宅（風見鶏の館）」や北野町・山本通地区の伝統的建造物などは煙突の落下や漆喰壁・天井の亀裂や剥落など、大きな被害を受けた。

(2) 修理方針

これら建造物の修理に関し、国指定重要文化財については、建設省の建築構造専門家、学識経験者、研究機関及び文化庁、兵庫県教育委員会、神戸市教育委員会、文化財所有者による「重要文化財建造物耐震対策委員会」を設置し、平成7年12月から平成10年2月までで5回の委員会を開催し、耐震対策化について検討を重ねた。その結果、ア。「旧ハッサム住宅」、「旧ハンター住宅」、「旧シャープ住宅（萌黄の館）」の3館については、煙突の復旧に際してステンレスのアンカーボルトやL形鋼で補強を行う。イ。煉瓦部分については脱落防止のため一枚一枚をステンレスのフレームに同質のなまし線を使って括りつける。ウ。「旧トーマス住宅」では上記3館の煙突部分で採用した煉瓦の積み方を煙突だけでなく壁面でも採用する。エ。「旧神戸居留地十五番館」では免震工法の採用、二本の煙突をSRC造の柱とすることによる上部構造の耐震性の確保、地盤の液状化防止、小屋組の鉄骨補強などの耐震対策が提案された。

また、北野町・山本通地区の伝統的建造物については文化庁による被災状況調査に基づき、煙突の補強、軽量化、漆喰壁を厚板にし構造補強を行うなどの修理方針が出された。

(3) 復旧支援制度

このような修理方針に基づき震災復旧工事が



写真13-3-1 全壊した旧神戸居留地十五番館



写真13-3-2 旧神戸居留地十五番館（再築）

開始されることになったが、修理に関して所有者の負担の軽減を図るため次のような震災特例措置が講じられた。

① 国庫補助制度の拡充

国指定文化財については、従来の国庫補助率50%が70%～85%に、伝統的建造物についても50%が70%に引き上げられた。

② 阪神・淡路大震災復興基金による助成

指定文化財については国・県・市からの補助金を除いた所有者負担の2分の1が助成された。

また、未指定の文化財についても一定の修理助成が行われた。

③ モーターボート特別競走収益金を活用した支援

市内の観光地の他、北野町・山本通地区周辺の公的支援を受けていない建造物等の修理に対して助成が行われた。

④ (財)文化財保護振興財団による助成

主に、文化財としての指定を受けていない美術工芸品等の修理に対して助成が行われた。

(4) 今後の文化財保護のあり方

震災直後の平成7年2月、北野町・山本通地区内の伝統的建造物のうち住居として使われている7棟の修理から始まった震災復旧工事は、平成11年3月、兵庫県指定重要有形民俗文化財「沢の鶴(榎)大石蔵」の完成でほぼ完了した。

今回の災害復旧工事ではこれまでの文化財修理の原則であった原状復旧だけでなく、耐震対策を講じることによってより災害に強い文化財建造物として再建された。

しかし、残念ながら滅失してしまったり姿を変えてしまった建造物もある。

市内には、指定文化財にはなっていないが、一定の評価を受けた優れた建造物が数多く残されている。これらの建造物に対する保護施策を検討していく必要がある。

震災後、文化財保護施策に関して2つの大きな変化があった。

まず一つは、平成8年6月に文化財保護法が改正され、近年急速に失われつつある近代の建造物を対象とした「文化財登録制度」が導入された。

二つめとしては、震災時の教訓や文化財保護法の改正など時代の変化に対応した文化財保護施策の必要性とともに神戸市独自で特色のある神戸らしい文化財を保護するため、平成9年3月に「神戸市文化財の保護及び文化財等を取り巻く文化環境の保全に関する条例」を制定した。

現在、この条例に基づき市内の文化財の保存・保護に努めているところである。

文化財は所有者個人だけでなく神戸市民共通の財産であり、次世代に受け継いでいくべき財産でもある。文化都市「神戸」にふさわしい文化財の保存、保護、活用を進めていくことが今後の我々の責務である。

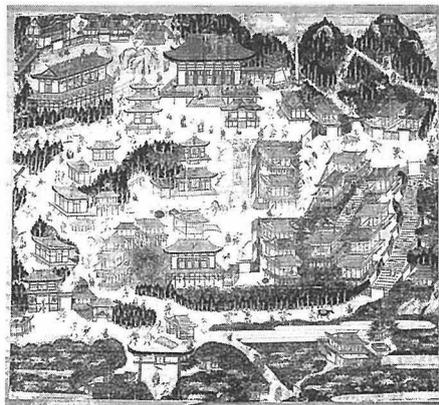


写真13-3-3 神戸市指定有形文化財（絵画）
しほんちやくしよくたんじょうさんみょうようじさんけいまんたらす
紙本著色丹生山明要寺参詣曼荼羅図



写真13-3-4 神戸市登録有形文化財(建造物) 淵上家住宅

第4節 埋蔵文化財発掘調査

(1) 埋蔵文化財の被害状況

今回の震災で、史跡や記念物等も被害を受けた。垂水区にある県下最大の前方後円墳五色塚古墳は、墳頂部に亀裂が入り、前方部の葺石が崩落、また同区の舞子古墳群では、古墳時代後期の横穴式石室が崩落するなどの被害を受けた。

一方、土地に含まれる文化財（埋蔵文化財）は震災の直接的な被害は免れたものの、震災後の復旧・復興事業に伴って生ずる様々な開発から、如何に保護を図るかが重要な課題であった。

① 調査需要の把握

ア. 本格復旧の際、今後の事業予測のための資料をえる必要から、周知の埋蔵文化財包蔵地（埋蔵文化財が存在する所として知られている土地）の住宅の倒壊・焼失面積の調査を平成7年1月25日午後から1月29日にかけて実施した。

イ. 被害の大きかった須磨区から東灘区にかけての1号市街地内の対象包蔵地98個所、880haのうち、234haの被災を確認した。被災包蔵地の調査結果に基づき、復興事業に伴って生ずる発掘調査需要を推計し、区画整理、再開発、防災公園、住宅建設など公共・民間あわせて約59haの事業が生ずると想定した。神戸市の従来の事業量から推定すると約10か年を要する規模である。

(2) 震災復興特例措置

① 平成7年2月7、8の両日文化庁・兵庫県と被災地の共同調査を実施した。2月中旬以降、国・県と震災復興に伴う発掘調査（以下「復興調査」という）をどこまで実施するかについて、断続的に協議を続けた。

2月23日には、文化庁から今回の震災に伴う埋蔵文化財の「当面の取り扱い」通知が出され、復旧事業に伴う事業は5月末まで、文化財保護法上の届出・通知が不要とされた。震災後の埋蔵文化財の取り扱いは、3月29日に文化庁から示された「基本方針」と4月28

日に策定された県の「適用要領」に依拠し、復旧・復興事業に伴う発掘調査は、復興事業の円滑な推進と埋蔵文化財の保護との整合を図るという前提で実施することとなった。その結果、個人の住宅・店舗等従前と規模・構造が大きく変わらない建物は、原則、発掘調査不要扱いとなる緩和措置が認められることとなった。この「基本方針」の適用期間は、当初、平成10年5月31日までとされたが、その後平成12年3月31日まで延長された。

② 今回の復興調査では、調査費の原因者負担制度が緩和され、補助事業の適用対象が従来の個人住宅以外に初めて中小企業まで拡大されたため、市民の協力が得やすかったといえる。

(3) 全国からの支援と復興調査の実績

① 全国からの調査支援

実際の復興調査は、平成7年6月に開始されたが、7月からは全国から兵庫県へ派遣された専門職員の支援を受けた。7年度は25名（10月から35名）、8年度は50名、9年度は25名の職員が被災市町の支援に当たった。うち、神戸市では月別最大で7年度13名、8年度25名、9年度13名の支援を受け、これに本市職員33名を加えた体制で復興調査を遂行した。10年度からは、県のみでの支援に変わり、本市職員35名に加え、4名の支援、11年度は2名の支援を受けている。

② 復興調査の実績

ア. 4か年の復興調査の実績をまとめると、以下のとおりである。

(市教委実施分)

| 年度 | 復興調査件数(内県支援) | 面積(m ²) |
|-----|--------------|---------------------|
| 平成7 | 63(17)件 | 80,949 |
| 8 | 86(31) | 87,913 |
| 9 | 89(19) | 73,370 |
| 10 | 84(10) | 44,107 |

イ. これらの発掘調査を事業原因別・地域別にみれば、民間事業では7年度は市街地東部と須磨区の住宅建設（共同住宅、個人住宅）や西北神の区画整理が先行し、8年度もこの傾向は続くが、市街地西部の住宅建設が徐々に増加。9年度は、遅れていた市

街地西部の復興区画整理事業に伴う住宅建設がようやく本格化した。

公共事業では、災害公営住宅建設や学校の復旧に伴う調査は8年度までで終了し、再開発・復興区画整理・受皿住宅建設等が、8年度以降の主な事業原因である。

- ウ. 復興調査の実施に当たっては、被災市民の理解と協力が不可欠であるが、調査に先立ち地元の住民への説明会を開催したり、発掘調査中の現場を公開するなどの広報活動を行った。



写真13-4-1 新長田駅南地区市街地再開発事業に伴う松野遺跡の調査

(4) 復興調査の成果

- ① 震災後4か年の発掘調査の成果としては、西区の新方遺跡で、縄文人の特徴を備えた弥生時代初めの人骨の発見、東灘区の本山遺跡で近畿地方最古の弥生時代の木製農具の発見、北区有馬で太閤秀吉の湯殿の発見など多くの貴重な歴史的発見があった。その一部は、平成9年に市立博物館で開催した「ひょうご復興の街から」の展示で紹介したほか、平成10年に埋蔵文化財センターで開催した「地下に眠る神戸の歴史展 XI」で展示公開した。
- ② また、震災復興関連の調査については、平成6～8年度の各『神戸市埋蔵文化財年報』の中で、やや専門的内容ではあるが、報告としてまとめている。

(その他の参考文献)

- ・「ひょうご復興の街から」神戸市教育委員会、H9
- ・「地下に眠る神戸の歴史展 XI」神戸市教育委員会、H10

(5) 復興調査の終息

- ① 震災直後の推計では、約59haの調査需要を予測したが、その後の推計値の見直しで、約54haとなり、5年後の平成11年度末までに、約40ha、全体の75%の事業量達成となる予定である。以後、毎年2～3haで推移し、平成16年度までに終息するものと予想している。
- ② この4か年の復興調査を省みて、震災からのまちの復興と埋蔵文化財の保護との調整という所期の目的が概ね達成されたといえよう。